

◎ 今日の講話で初めて閉経の時期を知りました。予想していたよりも早く、少し驚きました。現時点では子どもを産みたいとは思っていませんが、将来気持ちが変わったときのためにも知れて良かったです。自分の適性体重の認識状況に男女で差があること、女性のこの年代は肥満だと過剰に思っていることは、普段の言動から気が付いていましたが、数字でみることによって改めて感じられました。また、LGBTQ+について元々興味があり、よく自分から調べていますが、トランスジェンダーと性同一性障害がイコールではないことを初めて知りました。自分で学ぶと、どうしても粗が出てきてしまうので、このように話を聞ける機会があることがとてもありがたいです。菊地先生が教科書の内容にふれて、違和感について話してくださったこと、本当に嬉しかったです。小さなことかも知れませんが、このようなことが当事者たちを救うことにつながると思いました。また、性的同意年齢について疑問を持ったので、これからはそのことについても調べ、考えていきたいです。

◎ 今日の講話から、心身が成長していくにともなって、性や健康のことについてよく考えなければいけないということが分かりました。そもそもの正しい知識、考えを持ったうえで行動していくことが大切なのだ自分なりに考えました。また、自分のことだけではなく、相手のことも考えることが大切だということ学びました。一般的に「おもいやりを持って行動しろ」と日常生活でいわれるように、性のことに関してお互いについて考え、配慮し合うことが大切だと思いました。

別の視点として、社会的な面から考えてみるというのも重要だと感じました。今日の講話を聞いて一番驚いたのは、性的同意年齢が日本の場合13歳からであるということです。自分達はその年齢をとっくに越えていることにも驚いたけれど、義務教育中に意志決定ができる年齢が来てしまうということに違和感を覚えました。また、若年妊娠にもからむけれど、法律でそう定められている割には社会的な支援が足りていないのではないかと疑問に思いました。

◎ 私は、今回の講話を聞いて改めて思春期と性について考えることができました。高校生は今、性成熟という時期で成長しやすいことが分かりました。女性の月経は、初経10～14歳、閉経43～54歳でエストロゲンという女性ホルモンが発達していることを知りました。月経の時は貧血になりやすかったり、イライラしてしまったりするので自分に合った改善方法を見つけていきたいと思いました。また、性意識は必ず異性というわけではない時代なので、社会全体で分かり合えるような環境にしていきたいと感じました。性的同意については、日本が13歳ということに驚きました。何歳からでも自分の気持ちをはっきり相手に伝えられる人になりたいです。今は若年妊娠の問題をよく聞きます。高校生からしたら、お金がない、学業中断などという問題が出てくると思います。今は妊娠を考えず、避妊という方法もしっかり考えていくべきなのかと感じました。人工妊娠中絶だけはしてはいけないと思います。若いうちから性についてしっかり考えて安全に生活していくことが大切だと思いました。

◎ 本日の講話では、私たちが普段教えてもらえないような「性」に関する貴重な話を聞くことができました。中にはもちろん知らないことが多く、性意識の話の中で女性、男性の他にXジェンダーという言葉は知っていましたが、女性と男性の両方である両性、男性と女性の間である中性、どちらでもない無性の3種類あることを知りました。また、性的志向の話で異性、同性は知っていましたが、恋愛の対象にならない無性愛者という方がいることを知りました。菊地准教授がおっしゃっていた「教科書の表記が適切でないのでは」という話がとても印象に残っています。同性愛者や無性愛者という方がいる中で「異性」のみのことしか書いていないことは、私も本日の話を聞いて思いました。そのような人と今後どのように接していけばよいのか、本日の話にあったように年々性に関することへの意識が低下傾向にあることから、Xジェンダーの方や同性愛者、無性愛者と互いに理解（本日のような講演の場を増やし「性」への意識を高め知識を蓄える）することが大切だと学びました。

◎ 今日の講話では、今とこれからの私達に必要な知識を分かりやすく知ることができました。私が今日特に学んだことは、自分に正しい知識を持ち、意識と行動をとることが大切だと思いました。思春期に入ると精神が不安定になったり、個々の差にとまどったりすることがあるけれど、この講話を聞いて、たくさんの例があることを知れました。また、日本と海外の差を初めて知りました。性的同意年齢が特に低かったり、若年妊娠へのサポートが不十分だったり、日本では出産後のサポートも他国と比べると薄いことをこの前知りました。法律やユースクリニックなど、日本の足りない事を知れて良かったです。これから私達が変わっていかなければならない日本の未来を知れました。生き方についても再考することができ、それぞれの考え方をを持った人が共生できる、苦しい縛りのない社会になっていったらいいと思いました。自分の性意識や性別についてよく考えてみたいです。お話を通して、ユースクリニック等、堅苦しくなく、誰でも気軽に相談できて、誰にでも寄り添えるような素敵な仕事に興味を持ちました。今日はありがとうございました。

◎ 本日の講話から私たちが今後社会で生活していく上で同性、異性に関わらず、互いに理解し、尊重し合う必要があると思いました。なぜなら、普段一緒に生活している異性はとても苦労していることが、この講話を通して知ることができたからです。だから私はより尊重して生活していかなければならないと考えました。

また、私は、日本の性的同意年齢が13歳であることにとても驚きました。この13歳というのは、世界の国々からしても低く、小さいうちからその人に責任というものがあるということだからです。本日の講師の菊地さんが実際にあったことを話してくださいましたが、13歳の子と50歳の人の間での性行動で50歳の人不起訴されたということについて、政治家が13歳の子の同意があったのであれば罪にはならないという意見があったそうです。しかし、私は、13歳の子の同意があったとしても、13歳というのは、まだ自分で適確な判断・選択ができないと思います。だからこの性的同意年齢の13歳というのを改正すべきだと思いました。

◎ 小学生や中学生のときに習わなかった思春期に起こる変化のお話をさせていただきました。男性と女性では発現の年齢とホルモンの変化が違ってくるということが分かりました。急激なホルモン分泌の影響で心や脳が発達し、自分の意見がはっきりするということに驚きました。また、性に関わる意志決定で日本は13歳とどこの国よりも早いと思いました。

結婚年齢や出産年齢が近年高くなっているということで、高齢出産になりやすいので、医療が進んできた今、安全に出産できる環境だと思います。

妊娠中の体重増加の推奨量という言葉は初めて聞きました。お母さんが栄養をとれていないとお腹の赤ちゃんの成長にも影響するため、体重が設定されていることが分かりました。私は、人工妊娠中絶の話が一番心に残りました。将来の夢に関わっている内容だったので、産まれてこられない命がないような世界になってほしいです。

◎ 今日の講話を聞き、思春期の中での体の変化についてはもちろん、心の変化についてよく考えさせられました。今回の話で一番印象に残ったことは、性自認の不一致についてで、トランスジェンダー（一致しない感覚をもつ人々）がいるということは理解しているつもりでしたが、トランスジェンダーの人が皆、性別適合手術を望んでいるわけではないということや、トランスジェンダーがそのまま性同一性障害なのかといえばそういうわけではないということを知って、今までの認識が間違っていたのだと反省するきっかけになりました。他にも、性行動についての話では、パートナー間での性行動はコミュニケーションと同じなのだから、相手の気持ちをしっかり押し量ることができるように、相手の心と体を理解し、尊重できるようにしていく必要性の大切さを理解できました。これからの社会では、性に関することの多様性も受け入れていく必要性を学ぶことができよかったです。ありがとうございました。

◎ 今日のお話をおききして、改めて自分の体に責任を持つことが大切なのだと思います。高校生になり、たくさんのことで自己責任と言われる場面が増えてきましたが、やはり自分のことに責任をもつことは、自分の体を守ることにつながるのはもちろん、赤ちゃんやパートナーの体や健康を守ることに直接関わってくるのだと感じました。体調の良くないときや本調子ではないときなどは多くありますが、その日にできる範囲の最大限の努力をして一日一日を過ごしていきたいと思いました。そして将来、自分の体や子どもの体、パートナーの体を大切にできる人になりたいと改めて思いました。私は将来、助産師になりたいと思っています。だからこそ、今回の講話は将来とすごくマッチしていたものでした。たくさんの人に優しく明るく接することのできるような大人になるためにも、健康についてもっと興味を持っていきたいと思います。自分の体の管理をしっかりしていくことが、将来の生活に大きく関わってくるのだと改めて感じました。今回のお話を受けて学んだことがたくさんあるので、そのことを意識して行動選択をしていきたいと思っています。

- ◎ 私は、様々な考えを得ることができました。初めて分かったのが、思春期とは、目線を変えることで変わるのだと分かりました。私は男なので、女性のことはあまりしらなかったのですが、これを機会に女性に気づかうことができるようにしていきたいです。思春期の心は敏感ときいたので、そういうことに自分から気づけるようにしていきたいです。日本では全体的に性的なことへの関心が下がっていて、関心がないからなにかに巻き込まれると思うので気をつけていけるといいと思いました。一番疑問に思ったのが、性的同意年齢が、13歳だったということです。13歳はまだ中学1年生なのにもかかわらず、その年で意志決定していいのかというのがとても疑問でした。もっとしっかり考えてほしいと思いました。また、日本では法が時代おくれという部分もあるので、時代にあった決め方をしてほしいです。妊娠したくてもできない、不妊症には男女どちらも原因があるということを忘れてはいけないと感じました。避妊法については知識がなかったので、条件にそって協力していきたいと思いました。正しい知識を身につけて、健康に過ごしていきたいと感じました。

- ◎ 性の様々なことについて知れてよかった。特に、性的同意の話が頭に残った。日本では性的同意年齢が13歳であるのに対し、他国は14歳～18歳ということがひっかかった。成人でもない小さい子に性的同意を相手が一方向的に押しつけている事実があっても、証拠がなければ性的同意を受け入れたことになることが非常に怖くて、押しつけられた子のことを考えると悲しい気持ちになる。日本の法律が他国のように厳密なものでなく、被害者の意見を尊重できるような法になってほしいと思う。今回の講話から、日本全体で性への意識、認識が低いとわかった。LGBTや様々な性について受け入れられる社会になってほしい。テレビのCMで同性愛のような表現がされているものがあつた。社会の中でも、少しずつ受け入れられているのを見てすごく嬉しい気持ちになった。様々な性、人が自分らしく生きられるような社会にしていきたい。そのことについても考えさせられる講話だった。

- ◎ 男性と女性ともに、それぞれ問題をかかえているのだと分かった。例えば、女性は月経などにより貧血などが起こる事や、男性は女性と比べてあまり問題は少ないが、射精障害などといった障害が起こる事があるため、男女ともに異性または同性の体についてしっかり理解していくことが必要だと思う。今は、性意識がかなり大切にされている社会になっていると思う。異性の交際、結婚が当たりまえなのではなく、同性の交際、結婚も徐々に増加していると思う。そんな人たちを軽蔑や差別をするのではなく、理解や尊重することが最も大切なことだと思う。また、日本は他の国々と比べて、性に対する意識が低いと思う。私は、性的同意年齢が13歳はありえないと思った。処罰等に関しても、スウェーデン、イギリス、ドイツと比べて起訴されないケースが多いため、そこを含めて改善していったら良いのではないかと思う。